

シナプス

第206号

明るく 優しく たくましく



学校法人 大東中央学園

大東中央
幼稚園

大東中央幼稚園園長室だより
平成25年11月13日発行

☆園長コラム ☆キンダーカウンセラーコラム
☆担任の保育日誌から ☆身体測定結果

ホントにいいの!?

以前から、マスコミを通じてよく耳にすることが、日本の中核にいる高級官僚たちが「必要な情報を政治家に提供しない＝政治家の言い訳かも?」＝「官僚自身の保身を図って、政治家を翻弄する」等、官僚たちも政治家たちもエリート学校出身者ばかりなのに、東北大震災の復興状況を見ても、福島第1原発の復興状況を見ても、現場の本当の窮状を知らない、知ろうとしない人たちが復興策を立てるものですから、目に見えた復興が出来ないんですね。直接被害に合った地方自治体やその地域の住民は勿論のこと、気概あるボランティアの人たちが中心の行動には、限度がありません。マスコミに流れるニュースを見ては、歯がゆい思いをするばかりです。

東北大震災が起った時の政権党であった民主党、それを引き継いでいる自民党の政治家たちに限らず、その他野党の政治家たちも皆、高級官僚たちも皆、日本を良くするために働くんだという気概と行動があんまり見られないのは何故なのでしょう。幼稚園行政についても、現場でどんな教育が行われているのかわ知っている政治家や高級官僚がいない中で、単なる数合わせでガラガラポンと作られたのが、今回の「子ども・子育て三法」による認定子ども園制度だという気がしてなりません。

幼稚園の根拠法令は学校教育法であり、「幼児の心身の発達を助長すること」を目的としているのに対し、保育園(所)の根拠法令は児童福祉法であり、「日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育すること」を目的としています。つまり幼稚園は未就学児(3～5歳)の教育を行う場、保育園は保護者に代わって乳児又は幼児を保育する場、という大前提を無視して、幼稚園と保育園を一緒にしてしまうおうというのです。

少子化によって、幼稚園に空き教室が激増し、いわゆる待機児童をそこに収容すればいいと言う、単なる数合わせの施策といわざるを得ません。

小学校・中学校……の学校制度のように、年齢別入

学を考えて、0～2歳児は保育園に、3～5歳児は幼稚園に入園する制度にすれば、文部科学省のメンツも厚生労働省のメンツも立てることが出来るのに……。 (そう簡単にいくものでもないかもしれませんが、この方がよほどはっきりした制度に……。)

政治家たちも高級官僚たちも、東京大学を頂点とするエリート学校に入るために、多大の努力で猛勉強をして来た人たちばかりです。この猛勉強の中身はいったいどんなものなのでしょう。8月26日の日本経済新聞朝刊に、下記の記事がありました。 「運動よりも勉強を」で、ホントにいいの!?!かなあ。

母親の34%「運動よりも勉強を」

データ

ベネッセ教育総合研究所(東京)が3月、3～18歳の子供を持つ母親約1万6千人に学校外

年齢層	割合 (%)
全体	26
幼児	14
小学生	24
中学生	39
高校生	49

(注)ベネッセ教育総合研究所調べ

2009年調査
13年調査

での活動について聞いた調査で、子供が定期的にスポーツに取り組んでいるとの回答は55.6%だった。音楽などの芸術活動は29.6%、塾などの教室学習活動は41.9%となった。

一方で「スポーツよりも、もっと勉強をしてほしい」は34.8%。2009年の前回調査より8%増え、学校段階別では幼児での伸び率が高かった。「親の教育への熱心さが子供の将来を左右する」と考える割合は62.6%。担当者は「最近の『脱ゆとり』の傾向を受け、スポーツなどの多様な活動よりも、保護者の間で勉強を重視する意識が強まっている」としている。

お母さんたちが、我が子にどんな内容の勉強をして欲しいと思っているのかは、このデータにはありませんが、いわゆる教科学習だけに偏るのではなく、健康学習・一般常識を含めた情操学習にも力を入れるように願って欲しいものです。

辻本 博人